

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895000269		
法人名	株式会社グロリアコーポレーション		
事業所名	グループホームめぐみの丘5		
所在地	神戸市北区山田町小部字法殿ノ下16-16		
自己評価作成日	令和4年3月29日	評価結果市町村受理日	令和4年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和4年5月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

神戸市内であればどこからでもほぼ30分圏内で通うことができ、六甲山麓の大自然の中で地域の方々と触れ合い、利用者様の皆様がのびのびと自由にと生活が営めるよう心掛けております。個々の残存能力を最大限に生かし、職員が利用者様達と協力して食事を作ったり掃除したりという日常生活の中での作業を通して絆を深め、事業所の理念である「個人の尊厳が保たれ、地域において生涯その人らしい生活を送れるよう支援すること。」という目標を達成できております。日々の生活の中で沢山の喜びを感じて頂けるよう職員は利用者様たちとの絆を大切にしつつ細心の注意を払い、日々議論を重ねております。これまで出来ないと思っていたことが実はまだまだやれるという自己義認度の向上、出来なくてもいいんだ、出来る事をしっかりやろうという責任感を持って頂くのが我々の喜びです。職員の向上心も非常に高く、バックアップ体制も整っているため、去年、今年と連続で実践者研修に通わせたとという実績もあります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神戸市北区の六甲山麓に位置し、比較的入所しやすい条件もあり、事情を抱えた利用者が多いが、コロナ下で何かと制約の多い中を、「個人の尊厳が保たれ、地域において生涯その人らしい生活を送れるよう支援する。」との事業所理念達成に向けて、職員一同頑張っているのが解る。調査時のコロナが収束すれば何をしたいか？との問いに、管理者は年2回の遠足・外出・外泊・外食する時間を作り、施設内での行事を再開して、利用者様の笑顔が多くみられるようにしたい。との答えがあった。その日の到来の早く来ることを祈りたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し職員へ共有。理念に沿ったケアができていくか日々内省し実践するよう努めている。	県の実践者研修に参加した職員3名が、リーダーとなって、理念の実践に向けた取り組みについて協議し、分かりやすい資料を作成し、目につきやすい廊下の壁面に掲示して意識共有を計っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と近隣のスーパーやケーキ屋や100均へお買い物へ行ったりなど、なじみの地域でご利用者様が地域の一員として誇りを持って生活できるよう支援するとともに、事業所としても清掃除などを通し地域へ貢献している。	施設の立地として、周辺の溝に落ち葉が溜まり、下方住宅周辺に大量に流れ込むことがあり、職員が自主的に週1回程度の清掃を行い、地域環境が悪化しないように取り組んでいる。新年度になり、地域の自治会にも挨拶に行く準備をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応型の施設であるので年1回認知症についての研修を行っている。認知症があってもその人らしく生活が継続できるための知識と実践力を日々のケアの中で獲得している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍なのでここ1年程かいさいしていないが、今年3月に開催することが出来た。現状報告をしているが地域交流についてのご、運営に生かす努力をしている。	運営推進会議は、3月29日にコロナ禍以降初めての開催。出席者は、外部より地元包括支援センター職員・同法人系列施設の管理者と、施設側から、管理者・ケアマネが、出席した。	地域の自治会長が、最近変わられたようだが、今後の運営推進会議には、メンバーとして加わって頂くように働きかけたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所や地域包括支援センターとは密な連絡をとりあい事業所の運営やご利用者様のケアについての丁寧なアドバイスを賜ることもある。行政からの問い合わせも多々あり、サービスについてお伝えする場面も多く良い関係が築けている。	生活保護受給者の対応が、比較的多く、地元北区以外の生活支援課とも連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止に係る研修を年1回実施しスタッフ一同理解している。施設の方針として身体拘束は行っておらず認知症があってもその人の意図で安全に生活できるようケアしている。	年2回施設内研修を実施。管理者は、ネットを活用し、資料を準備してフロアごとに研修を実施し、必ず、振り返りの感想を書いて提出している。また、月1回のミーティングに合わせて、フロアごとに補足研修や情報共有を計っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止に係る研修を年1回実施しスタッフ一同理解している。施設の方針として身体拘束は行っておらず認知症があってもその人の意図で安全に生活できるようケアしている。	年2回施設内研修を実施。管理者は、ネットを活用し、資料を準備してフロアごとに研修を実施し、必ず、振り返りの感想を書いて提出している。また、月1回のミーティングに合わせて、フロアごとに補足研修や情報共有を計っている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中長期的に見た時に日常生活支援事業や成年後見制度を必要とするご利用者様について活用に向けて当施設として全面的支援を行った例があるが、全スタッフの学びには結びついてはおらず学習機会をの必要性を感じている。	後見人制度利用者は5名おられ、身寄りのない方もあり、司法書士さんなどが後見人になっており、コロナが落ち着けば、運営推進会議への呼びかけや、研修に向けた取り組みなども期待できる。	関係のある司法書士さんなどの協力を得て、職員研修の機会を検討されたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や入所契約書に基づき細かくご説明し納得・理解が得られるまで丁寧でわかりやすい説明を心掛けている。説明の中でご質問やご不安などが自然とくみ取れるよう説明方法にも工夫している。	契約時の質問は、受診時の家族対応の有無や、入院期間が長引いた場合のことなどが多く、それぞれ過去の事例に基づき、分かりやすく丁寧に説明するようにされている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時にご家族様と面談を行うが、今コロナ禍の為おこなっていない。日々のちよとした報告事項等を等をお伝えする際にもコミュニケーションをとり気軽に意見が言える関係づくりを目指している。頂いたご意見はカンファレンスで共有しケアに生かしている。	現在、お風呂対応の時間設定について、利用者からと、スタッフからも、もう少し余裕を持った時間設定ができないかとの意見が出ており、検討を進めているところである。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中でのコミュニケーションや会議における意見の発議などをとおして意見を実現化、職員も運営の一役を担う存在として自覚と誇りを持てるよう工夫している。	現在、お風呂対応の時間設定について、利用者からと、スタッフからも、もう少し余裕を持った時間設定ができないかとの意見が出ており、検討を進めているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的にスタッフの話に耳を傾け仕事への思いやケアに対する姿勢などを共有、お互い切磋琢磨しあえる環境をつくっている。ワークライフバランスを考えたシフトづくりや積極的有給消化など働きやすい職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者虐待、身体拘束禁止に係る研修、事故発生時、認知症対応など年に何度かテーマ別に研修を行って知識の獲得と日々の内省機会を提供している。法人外研修も業務命令として参加したり、スタッフ誘い合わせて学びに出かけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の施設長会議への参加や北信のグループホーム連絡会などの議事録参照などを通して当施設内で共有し、いい気づきがあったら取り入れて質の向上、業務の効率化・改善を図っている。		

自己	三者	項目	自己評価		第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談での傾聴や入所時アセスメン。日々のケアなどを通してご本人の現存の能力や潜在能力などを見極め、その人が望む暮らしが安全に送ることができるように支援し、ケアプランに盛り込んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談や入所時アセスメント、入所後の密な連絡等を通してご家族様の日々変化する状況を把握し、施設としてご家族様へできることを模索しつつご意見やお困りごとを相談しやすい関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人にとって当施設が最善の選択になるよう、入所前面談やアセスメントにて現状把握につとめ、双方の気持ちに寄り添う。その際当該施設が最善の選択でない判断したら他サービスの紹介等も行う等のお手伝いをする。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「現在できていること」と「潜在的に」できることを日々のケアの中で見極め、ルーティンの中で共にできる家事や作業はすべてご利用者様と一緒にやっている。暮らしにメリハリができ、「人の役に立っている」という自信につなげている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当施設の理念に家族への支援がある。施設見学時には施設入所に不安や罪悪感のような感情を抱いているご家族もいらっしゃる。様々なご家庭の事情がある中、個々に寄り添い、ご利用者様のケアにあたるチームの一員として連携する。			
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙を書いていただいたりお電話をつないだりなどして関係が途切れないよう支援している。	社用携帯を利用して家族と利用者の繋がりが途切れないよう、常時連絡を取っている。電話が難しい家族とは、メールでやりとりしている。ほとんどの家族がメール対応可能である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士穏やかに気持ちよく生活することができるよう食席やソファなどの配置を工夫。どなたかが孤立しそうになったときはスタッフがうまく立ち回っている。			

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もその後の生活が適切に遅れているかの確認や、ご家族様にお困りごとが発生した時の相談受付など密にフォローしつつ、地域の中での施設の役割を全うできるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや日々の密なコミュニケーションにより思いやご意向を汲んでいる。思いを口に出さない方のニーズはイエス/ノーで答えられる質問やその方のご家族様へのヒアリングなどを通してその方の意向に沿う形できるよう工夫している。	聞き取った情報は、ケース記録にその都度記載され、職員が常に情報共有できるように管理されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族やその方に支援の面がかかわってきたケアマネやご友人などから情報を収集し、日々のケアの中で生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや毎月のカンファレンスによりお一人お一人の日々の状況の把握に努め変化があれば共有しケアプランにも反映させている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が利用者本位のものになるよう職員がアセスメントを行い、また日々の密な会話などを通してご利用者様やご家族の思いをくみ取り介護計画に反映している。	今年度4月より、利用者対応について責任意識の強化を図る方向で、職員1対利用者1~2名の居室担当制を実施されており、計画策定にも管理者・ケアマネと共に担当職員が参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子などを記録してケアプランに取り入れている。実際の発言など具体的な描写も心掛け、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームは施設でもありそのご利用者様にとって「家」でもあるのでその時々ニーズに対応することができるようご本人の気持ちに寄り添うだけでなく、ご家族様からのご要望に応えることができるよう努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にあるスーパーへ一緒に食材の買い出しへご利用様と出かけることが度々ある。地域内のご家族の畑より旬の農作物の提供をいただくなど協力をいただいております。卓での会話が弾んでいる。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での往診が月2回ある。服薬の管理や傷病の治療など健やかに生活できるようスタッフが日々の健康状態を把握してドクターへお伝えしている。画像診断やその他手術等が必要な場合は指示に基づき他科診療する。	協力医療機関よりのかかりつけ医は、第2と第4金曜日の月2回往診にこられる。他の医療機関対応が1名あり、家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設は看護師の配置はないが、月2回の訪問診療の際に訪問の看護師にご利用者様ごとの健康管理を行えるよう、日々密なコミュニケーションをとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご利用者様にとってなじみの関係である施設スタッフ面会を行い安心していただき、退院時に病院から看護サマリーを入手し退院時にはグループホームでの生活が継続できるよう病院との連携を図っている。	入院された時点で、地域連携室担当者と連携をとり、入院期間中も含めて、家族ともに連絡を取っている。付き添いなどの事例はないが、足りない物品を届けたりは、できている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期のご利用者はおらず看取りも当施設は行っていないが、契約時にご家族様の終末期についての思いをヒアリングし、その後ご利用者様が重篤化・重度化した場合に本人や家族、提携のドクター等と十分に話し合いチーム間で方針を共有している。	身体状況を見ながら、必要な時期が来れば、かかりつけ医と、管理者・ケアマネが同席し、家族とともに、ヒアリングを行い対応の確認がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に急変時等に慌てて内容が頭から飛んでしまっても対応できるよう急変時の対応を電話口の近くに掲示している。急変時マニュアル、事故発生時マニュアルを通して急変時における動き方の研修をしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に加え避難場所も全スタッフが把握しているがいざ災害の発生時には認知症の方々の周辺症状悪化が見込まれ適切な避難ができるか、また行政からの避難指示の把握が適切に届くか職員から不安視する声もある。	この地域は危険区域の指定外であるようだが、職員が安心して対応できるように、具体的な避難訓練方法などについて、系列施設とのネットワークを生かした取り組みが必要。	現状でできる対応策に向けて、地域の状況を把握し、消防団などの社会資源との連携強化を期待したい。

自己	三者	項目	自己評価		第三者評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お声掛けの一つで祖のご利用者様が傷つくこともあるということを全スタッフが留意、スタッフ間の申し送り時にはインシヤルにて話すなどプライバシーに気を配っている。	全スタッフがケース記録、申し送りの際にも、呼称は必ずインシヤルにて対応している。たまに不適切な言葉かけしていることがあった場合には、互いに注意しあえる関係ができています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の密な会話の中で本人の思いが表出できるようにご利用者様間やご利用者様とスタッフの間でコミュニケーションを絶やさないようにしているが、ご家族のご事情で希望に添いかねることもあり説明に苦慮するスタッフもおり日々勉強である。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「みんなで過ごす時間」と「一人で過ごす時間」の中で個々のご様子を観察、状況を判断しつつその人らしい時間が穏やかに過ごせるよう努めているが不穏状態に陥った人がいるとその方に寄り添うとに追われてしまうときもある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身のなじみのある衣服を季節に応じて適切に楽しめるよう支援している。お出かけの際は特別気に行っている衣類をきていただくこともある。毎朝の洗面時の整容は徹底し、鏡の前には車を置いていつでも毛髪が整えるようにしている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に際してはご利用者様もかかわっていただき、個々の応力に合わせて家庭的な雰囲気のもと食事づくりから楽しめている。また日々ご利用者様の食や味付けの好みをリサーチし苦手な味・食材は個別に排除している。	料理に参加できる人は、数人であるが、誕生日会、季節料理等のメニューと一緒に考えたり等、配慮されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表を作成し、適切に栄養がとれているか、最低限の水分がとれていなかったり運動量に対して水分摂取量が少なかったりした場合は水分摂取を勧めて熱中症やその他感染症などの予防に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の気持ちに寄り添いながら、毎食後に口腔ケアを実施して口腔状態の清潔保持を徹底している。週に1回訪問歯科による口腔内清掃が行われており、状態や治療経過をスタッフと共有、日々のケアにいかしている。			

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表から個人個人の排泄パターンを周知、その場の状況に合わせた声掛けや確認を行い膀胱炎などの病気を予防、皮膚状態の清潔を保持している。	汚染時は随時陰洗、シャワー浴を行っている。チェック表には状態を詳しく記載する事により体調の確認、皮膚の確認を行い、状況に応じて受診も検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操やストレッチ、水分チェックなどの運動で便秘の予防を行い、排せつ票の確認を通して便通の周知を行っている。個々の便秘については腹部マッサージや適度な下剤使用などで気持ちよく排便できるよう支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として週2回の入浴を実施。その日の気分に合わせた入浴剤を使用し会話に取り入れている。曜日は決めてしまっているが、それにより「明日はおふろの日だね」とご利用者様の生活にメリハリが出ている。	入浴日を決定することで、混乱することなく、安心と楽しみの様子が見える。体調不良の為入浴できない場合は、清拭や更衣等で対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅にいたときの生活のリズムや習慣をアセスメントにて把握、「個の時間」が豊かなものになるよう支援している。不眠の方がいれば寄り添い、日中傾眠している方がいれば適度な午睡にて日中の健全な活動が保たれるようケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は薬袋の日付・時間帯(朝・昼・夕等)・名前を超えに出して確認、誤薬のないよう留意している。薬の目的や副作用等については新しいスタッフにとっては目新しいものもあるが最終的には全スタッフが把握に努めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「今できていること」「(能力的に)できること」をご利用者様ごとにスタッフが把握、定期的に見直しながら集団生活を支えるための役割を持っていただいている。人の役に立つという自覚から自尊心をもっておられる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	運動も兼ねたレクリエーションの一環としての外周散歩を主とし、外の空気につれて自然を楽しみ、季節を感じていただくための支援を日々行っている。遠足等はこの中の為、ここ2年間実施していない。	コロナ禍の中、外周散歩の時間は、平均10分程度であるが、利用者のADLに合わせて、職員1名で、利用者1名か2名で対応しており、男性職員が、おんぶして散歩できて、喜ばれた利用者もあった。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に保証人も交えて話し合いを行い金銭管理について能力のある方でも所持していただいていないが、スタッフとご利用様で買物へ出かけた際はスタッフ見守りのもとお金をわたし会計をしていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望しており家族が了承している場合ご利用者に合わせた支援を行っている、		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには壁絵や、遠足の写真などをはり自然と利用者間、スタッフ利用者間で話が弾むような工夫を施している。BGMで昭和歌謡曲や童謡を流している時間も多く、記憶や感性に直接働きかけている、	毎朝、職員の動きにあわせて、一緒にモップ掛けをされる利用者も何名かあり、身体を動かすことが習慣化されている。また、目につく掲示物の話題で自然な交流ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内にはソファを設置、屋外には一人掛けベンチをおくなど気がしれた利用者同士でのんびりくつろぐことができる工夫をし、「集団」でのかかわりとともに「個」の時間も豊かになる空間を提供している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で長く使っていたなじみの家具や思い入れのある物品などを持ち込み、居室に親しみや懐かしみを感じていただけるお部屋作りをお手伝いしている。	居室の清潔保持についても、シーツ交換時等も、職員との連携ができ、楽しみながらの環境整備ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべての廊下・トイレ・浴室等に手すりを設置、安全に歩行するための設備が整っている。また家具の位置など、転倒やその他事故につながる危険がないか日々見直している。		

基本情報

事業所番号	2895000269
法人名	株式会社グロリアコーポレーション
事業所名	グループホームめぐみの丘5
所在地	神戸市北区山田町小部字法殿ノ下16-16 電話 078-595-7655

【情報提供票より】令和 4年 3月 29日 事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成27年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤:	2人 非常勤:21人

(2)建物概要

建物構造	単独型
	第一種低層住宅木造造り 2階建ての1~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	共益費 3,000 円	
敷 金	無し	水道光熱費等 12,000 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	1日当たり 1,800円			

(4)利用者の概要(令和4年 3月 26日現在)

利用者人数	15 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	10 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	クリニックヤマダ・かもめ歯科
---------	----------------

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他(自己評価を管理者、計画作成担当者が中心になり実施した。)
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他(今後の運営推進会議で説明し報告します。・職員には4月の職員会議時に報告します済みです。・ご家族対しては玄関フロアに掲示、説明します。)
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他(目標達成を作成し、職員に説明し、取り組んでいきます。運営推進会議で説明、報告致します。)